

学校保健

THE SCHOOL HEALTH No.181

(財)日本学校保健会

生涯にわたる
健康な生活をめざして
—自から進んで健康な
ライフスタイルを
確立するこどもの育成—

第39回全国学校保健研究大会の主題



ヘルスカウンセリングの 技術と学校保健

女子栄養大学教授 宮坂 忠夫

心の健康を扱う領域の名称としては、古くは精神衛生があり、その後精神保健、精神健康が使われるようになり、さらに職域等でメンタル・ヘルスと呼ばれるようになった。

これらのことばは、いずれも、広義に解釈すれば同義語といってよいと思うが、従来と違うことばが使われるようになるには、それなりの理由があることが多く、心の健康については、精神健康ということばが現われた頃から、現在と同様の心の健康の諸問題が重視され、実際的な取組みが行われるようになったと思われる。

そのような取組みができるようになった、重要な背景として、ヘルスカウンセリングの技術の開発と進歩がある。従って、われわれとしては、これからの学校保健のために、十分にこの技術を身につけて行く必要がある。

しかし、ここでもうひとつ申し上げておきたいことがある。それは、ヘルスカウンセリングをただひとつの技術とみるだけでなく、そのような技術が生まれてきた基本的な考え方をしっかり理解することである。換言すれば、“カウンセリングの心”をしっかりと把握したうえで、“技術”として活用することが大切だと私は考えている。



目 次	
ヘルスカウンセリング について	
面接の進め方	… 2～3
面接技法の訓練	… 4
Q & A エンカウンター	
グループとは	… 5
指導者養成講座に参加して	… 6

面接の進め方

心理的に悩んでいる子どもが多くなっている今日、私たちは子どもとの心の触れ合いを深めながら、その子どもの抱えている問題を解決できるように導いてやる必要があります。それには、ここで述べる面接の進め方を活用することが、有効であると考えます。

毎日、ため息ばかりついています。大きな石でものみこんでいるようにとても気が重くなる時があります。最近心から笑えたことがありません。どうすれば楽しくなれるんでしょう。(15才)

「資料、養護教諭による
保健室相談の調査より」

1. 導入の段階

＝心の交流を図る

まず、教師が親身になり、子どもを受け入れることです。教師が自分の価値観に触れるような場合には、なかなか受け入れにくいものですが、自分の価値観にとらわれず、子どもの話を聴いてやることです。

ゆっくりと子どもの言葉に耳を傾けているうちに子どもは少しずつ心を開いて、本心から話すようになってきます。

この時が、真の意味での面接のスタートになります。

子どもの話に耳を傾けると同時に、子どもの表情や態度の微妙な様子を観察することも大切です。

したがって、肩越し、あるいは背中越しの応対では、子どもが話す状態にならないと同時に、教師も子どもを観察することができません。やはり、面接はからだ全体で対応することが必要です。



親身になって聴くことと、子どもの様子を観察することは、相反することのように思われますが、それは子どもとの間に補い合うという関係のあることから、どうしても必要なことなのです。

この段階で、子どもの家庭や学校での人間関係に原因が有りそうなときには、その子どもの問題を自分一人で抱えていくことの是非をよく考えることも必要です。他の教師と連携をとることが、より適切であり、より効果のある場合が多いものです。

2. 展開の段階・その1

＝自己探索を助ける＝

会話の中で、子どもの立場に立って、子ども自身が何を考え、どう感じているのかを十分に知ることが大切です。

その上で、話の内容や背景について考えを深められるように援助します。そのためには会話の中で適切な相づちをうったり、子どもが話した言葉に沿って、少しずつ話をまとめてやること、たいへん役立ちます。

「私には、あなたがこう言っているように聞こえるのだけれど、そういうことをあなたは言いたいのか？」と、問い掛けるようにして時折、話をまとめていくことが必要です。

教師が、自分なりに話がわかったと思込むことは避けなければいけません。子どもの気持ちや訴えを、子どもと教師で照らし合わせながら、意味や内容を確認め合っていくことが大切なことなのです。

それには、子どもが自分の思いを教師に伝え、教師が子どもに受け戻して確認することと、教師が感じたことを子どもに投げ掛け、子どもからの反応を待つことがあります。

この二つを組み合わせながら面接を進めていきます。そのために、子どもとのよりよい関係をつくり交流を図ることが大切です。

教師からの投げ掛けとして、例えば、経験を積んだ一人の教師として、手元にあるデータを示し、子どもの問題に答えたり、解決のための具体的なアドバイスをしたりすることが考えられます。また、人生の先輩や生きる仲間の一人として、自分の経験を語ったりすることも考えられます。

しかし、この場合の教師の言葉は、子どもを説得させるものではなく、それをきっかけとして、子ども自身が自分の思いにさまざまな考えをめぐらす機会を得るための、具体的なアドバイスであるということ。

教師は、子どもと歩調を合わせて進む伴走者であり、その存在により、子どもは少しずつ自分の経験した感情を明確に意識し、自己理解へと進んでいきます。



3. 展開の段階・その2

＝自己理解を助ける＝

自分の経験が明確になり、自己理解が進むと、子どもは中心的な問題を回避したり、他の問題とすり替えたりして、逃避することがあります。これに対しては、中心的な問題とすり替えていることを自覚するよう援助したり、励ましたりすることが必要です。

その時に、子どもが「避けたい」という気持ちを、教師がどの程度の理解をしているかが一つのポイントとなります。その気持ちを理解しようとするところまでは、共通の流れでしょうが、具体的にどのように対応するかは、教師一人一人の個性によって異なってくるでしょう。

しかし、その働き掛けの中で、今抱えている問題には、別の見方、考え方もあるということ、子ども自身に気づかせることも必要です。

その時に、自分一人ではなく、傍らに共に歩んでくれる人がいると感じることが、強い支えとなります。このような経験の積み重ねの中で、自分自身への信頼感がもたれ、問題解決へと導かれていきます。

4. 行動の段階

＝行動計画と実践を助ける＝

子どもが、自分自身で問題の原因を理解できれば、次は、それを建設的な方向へ改めようとする段階になります。この成長への決意が大切なのです。そうすれば、例え放っておいても、自ら問題解決のための計画をたてたり、実践したり、学習や日常生活の改変に努力するようになります。

そのために教師は、その計画作りに助言したり、その実践を温かく見守ったり、励ましたりしてやるのが大切です。

子どもと教師の面接は「展開の段階・その2」で終わることも多いようです。その場合には、子どもの行動面の変化や周囲の変化は面接に携わった教師の手から離れた所で生ずることになります。

しかし、そこまで努力し、導いた子どもを全く無視しているようでは、教師失格になりましょう。親身になって面接をしてきたならば、例え教師の手から離れても、それらの変化を遠くから見守ってやる必要があります。

このような面接の段階（過程）を通して、面接時の子どもの心身の様子、その後の状況、対応の仕方などを細かく記録しておく、いろいろな対応や診療に大きく役立つものです。

面接には、技術的な要素も欠かせませんが基本的には教師の人柄と、人間的な経験を質的・量的にどれほど積んでいるか、さらに、子どもに向かう真摯な姿勢が問われるものです。

特に、面接は基本的には担任教師の仕事ですが、常に養護教諭や保健主事の教師と連絡をとり合ってください。また、次頁のようにいろいろなケースについての研修を深めることと、面接の訓練をしておくことが必要でしょう。

ここでは、面接のごく初歩的な流れを述べましたが、子どもとの現実の付き合いは、極めて個別的なものとなります。相手の子ども一人一人の問題・状況に応じ、また、その場その場でうまく対処できるように、私たちは、研修と訓練を積んでおくことが大切です。

昭和60年3月に日本学校保健会で発行した「子どもとのふれ合い…面接の考え方と進め方」という、こころとからだの健康増進委員会で作成した冊子を要約したものです。

(文責 壺井忠雄編集委員)

面接技法の訓練法

教師が子どもと面接する場合、子どもの側に立つて子どもの気持ちを受けとめるためには教師自身の人間性が大きく関係します。

その人間性を高めるには、教師の対人関係の経験の中で得ることもできますが、また、訓練によって強化することもできます。

訓練とは気づき（相手の感情の動きや行動等について感じ取ることができる感受性のこと）をいかに高めていくかにあるわけで、この**気づきの力**をつけることで広がりのある有効なかかわりあいができるといえます。

1. 気づきを高める工夫（効果的な訓練法）

気づきを高めるには自分自身を客観的に見ます。または、他人に観察してもらいます。そして、頑なに閉ざされた自分の心が開かれる（**解凍**）ようにします。心が開かれることで心は**変化**し、新しく成長した自分が誕生（**再氷結**）します。このような訓練によって人間の態度が変容する過程を**解凍・変化・再氷結**という三段階に分けられており、とくに第一段階の解凍過程が大切とされています（1図参照）。

教師が子どもの気持ちを受けとめるためには、教師の心が開かれていることが必要です。面接の時、子どもの反応や言葉から自分自身の姿を“鏡で見るように”気づくことができるようになります。

このように訓練等によって教師が心を開き、子どもと共に成長する努力が必要です。

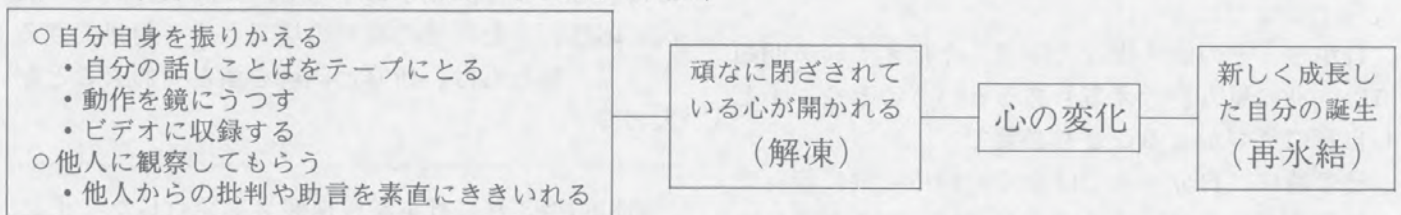
2. 気づきを高める事例検討会の持ち方

事例検討会は、覗き見的事になることなく、この目的が発表者への援助となり、間接的に子どもを援助するという方向づけが必要です。

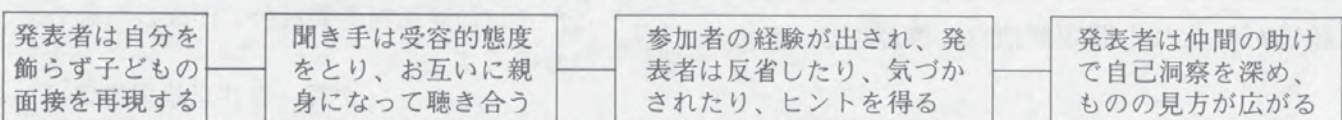
2図のような事例検討会を育てていくことが大切です。

1図 気づきを高める訓練法

自分を客観的に観察する方法（解凍—心の変化—再氷結）



2図 気心が知れているグループで面接事例を話し合う



3. 自己研鑽の進め方

自己研鑽には書物などにより知識を得るものと、体験学習的なものがありますが、自己研鑽だけでは限界があります。それを補うものとして研修会への参加が必要となります。

つぎに体験学習的な研修を紹介します。

(1) 応答練習

子どもの状況と訴えを想定した設問を配布します。参加者はそれに対する理解と考え方を記入して回答します。違った回答に触れることで参加者各自の自己理解を深める方法です。

(2) 積極的傾聴法

対人関係で最も基本的なことは聴くことです。話し手、聞き手、審判係が一組となり、話し手の言ったことを聞き手が繰り返します。三人がそれぞれ役割分担を交替し、一廻りしてから各自、自分や他人の話し方や聴き方で気づいたことを披露し合う方法です。

(3) ロールプレイ法（役割演技）

自分の振る舞いの観察を容易にする方法のひとつ。たとえば、保健室での面接の場面を想定して、教師と子どもの役割りを演じます。演技者は人前でその役になりきるために一生懸命に役の特徴をとらえようと努力します。このとき観察の方法を会得するわけです。

(4) Tグループ（トレーニンググループあるいはエンカウンターグループ）

対人関係の調整が業務の大きな部分を占める職種や管理者対象の「対人関係における気づきの訓練法」として開発されたものですが、面接者の訓練法としても適切です。（Q&Aの項参照）

（文責 福原保子編集委員）

Q & A - 学校保健活性化のための -

Q エンカウンター・グループとは……
その意義、機能を教えてください。

A …………… お茶の水女子大学家政学部児童学科助教授 飯長喜一郎

近年、我が国のヘルスカウンセラーの教育・訓練にエンカウンター・グループが導入されて来ている。エンカウンター・グループは広くは集団心理療法に含まれるが、精神的な疾患をもっていない人を対象にしている点、あまり構造化しておらず参加者の自主性が尊重される点で特徴がある。

エンカウンター・グループがカウンセラーの教育に応用された歴史は、1946年のロジャーズが指導した「復員局勤務のカウンセラー養成プログラム」にさかのぼる。その計画では、伝統的な講義中心・認知的学習訓練中心の方法をやめて、動機・感情・態度・自己理解・他者理解などに焦点をあわせた体験的学習と認知的学習とを結びつける「集中的グループ経験」が中心とされた。その結果、多くの参加者に感動的な学習体験をもたらした。

エンカウンター・グループによる訓練は、メンバー相互間で自己および他者の受容、共感的理解、自己一致の態度を経験的に学習することをねらいとしている。

通常は10人前後のメンバーと1～2名のファシリテーター（促進者）からなる。期間は、我が国では通常1日（10時間程度）から1週間程度である。

我々は日常、エンカウンター・グループのような制約の極めて少ない長時間の話し合いの機会を持たない。そのため参加者ははじめ、途方に暮れ、右往左往することが多い。そして、会話は日常会話的な当たり障りのない話題から始まる。次第に過去の感情の述懐や個人の内面への探索的な動きが生じ、自分自身や他の参加者に対する「今、ここで」の気持ちの表明へと至る。グループの治癒力が発達してくると、参加者同士が支えあい、その支えを頼りにして自分や他者と対決し、仮面が割れて、新しい理解の側面が顔を出してくる。その結果、日常的な意味での理解を越えた、より深い自己および他者との「出会い」を体験することとなる。

このような経験は、カウンセリングにおけるカウンセラーとクライアントとの間に生ずる経験に似ており、その意味でエンカウンターグループは、訓練として有効な手段である。また、自分の他者への影響を知る意味でも役に立つ。さらに、自己理解による自己成長の結果、不安が少なくなり、心理的安定感が増したり、自分や他者への信頼感が増したりする。これらはカウンセラーに最も要求される資質である。

こう見てみると、良いことづくめのようなものであるが、危険性も存在する。人間が変化するときには、一時期、ある程度の傷を負うことがある。そのあいた傷口がうまらぬままグループが終わってしまったときには、その後のケアが必要になる。グループでは、時には相手に対する否定的な感情が表明されることがあるが、その結果を慎重にフォローする必要がある。また、何でも正直に意見や感情を表明するのが良いのだと思い、乱暴な思いやりのない態度を学習してしまうこともある。たとえ真摯な態度を表明するにしても、日常生活には日常生活のルールがあることを忘れてしまってはならない。ストレートにばかり表現しては、現実生活では摩擦を生じてしまうことを忘れてはならない。

エンカウンター・グループの体験は強力なものであり、人生にとって重要な意味をもつことがあるが、一方でその体験は一時的なものでもある。このパラドックスをどこかで理解しておくこともまた大切である。要は、長い期間の変化・成長・発展の契機として生かしていくことである。

エンカウンター・グループは、適切に運営されれば、参加者ひとりひとりの成長を促す力のある実践である。そして、治療法というよりもむしろ、人間が生きあい生かしあう経験をするための社会的な運動の場として、あるいは、自己理解・他者理解のための教育的活動として続けられている。

虎の門(4)

保健室を訪れる子ども達

「子ども達のありのまま」を受け入れる存在でありたい、私は常にこのことを念頭に努力している。

月曜日の1校時に「気持ちが悪い」と青い顔をして来室したT子。聞けば一週間を通して自由に遊べる日は一日も無いという。ベッドに休ませると5分もしないうちに

スヤスヤと寝込んでしまった。T子が自分の気持ちを口にしたのは、それから2時間程休んで目覚めたからだ。

このT子の例に限らず、保健室を訪れる子ども達の多くは、心の痛みを「身体症状」で訴える。

「わたし・ぼくの顔を観てくださ

い。そして話を聴いてください」
こういうサインを送ってくる沢山の子も達。その子ども達の願いに真に應えるのは、大人の側のおおらかな心のゆとり（はば）ではないだろうか。

（富川佑子編集委員）

北から南から

自己を開く勇気を… エンカウンターグループに参加して

福島県立福島高等学校

養護教諭 鈴木 和子

京都府立福知山高等学校

養護教諭 芦田 祥代

初体験に戸惑う

平成元年度の北海道・東北・関東地区ヘルスカウンセリング指導者養成講座は、福島市の山あいの町飯坂温泉で行われました。

私は、この講座で初めてエンカウンターグループの体験をしました。グループごとに一部屋に集まり、大学の先生を中心に始められましたが、これまでエンカウンターについての経験や予備知識が全然なく、この講座で即戦的なカウンセリングの技術(うまい方法)を身につけたいと意気込んでいた私は、戸惑ってしまいました。グループに集まってきた見ず知らずの人達も、思い思いの発言をしたり、ギョロギョロと目ばかり動かししたり、黙って下ばかり向いていたり、最初のうち私は何を学び取ればいいのか分からず、時間のたっていくことに焦りを感じたからです。私も恐る恐る自分の悩みらしきものを話してみましたが、「つまらないことを言ってしまった」と後悔し、その場から逃げ出したい気持ちにもなりました。

しかし、「カウンセリングとは、傾聴・受容・共感(C, ロジャース)すること」という言葉を思い出し、自分がカウンセラーになったつもりで、メンバーの話すことを一生懸命聴き、共感しようと思ひ立ちました。

心の内面を見つめ

そうしてエンカウンターを毎日朝から夜まで実習していく中で、「人間とはなんと心の豊かな存在なのだろう、まるで心そのものである」と気付きました。そう気付くと私は、日常、保健室にやって来る生徒が溢れんばかりの「心」を携えてきていることを、どれだけ認識していただけるか。苦痛を訴える手なら手、おなかならおなかばかりに注目し、目には映らない生徒の、その時の気持ちをどれだけ受け止めていただけるかと反省させられました。

またエンカウンターは、私も含めてメンバーの人達の心にゆさぶりをかけ、深い内面を見つめさせるものでありました。ですから、みんな最初はかなり自己防衛的でしたが、しだいにお互いに心の内面をさらけ出し、相手を攻撃したり、思わず涙ぐんだり、言葉に出せない感動もありました。やがて終了が近づくと、初めて知り合った仲間とは思えない程親近感を覚え、先生を囲んでの再会を誓って別れました。

こうして、私にとっての初体験のエンカウンターグループは、カウンセリングとは何かとの間に、見事に答えてくれたすばらしいものでした。

2日目の午後から実習

平成元年度北信越・東海・近畿地区ヘルスカウンセリング指導者養成講座を受講するため、残暑の中、5日分の衣類の入った大きな鞆を持って京都堀川会館へやってきたのは、9月18日の12時30分頃でした。受付場所を捜してウロウロし、重い鞆を持って階段を上り、受付をすませ、席にすわるとほっとして、「誰か知っている人はいないかな」と周囲を見まわしました。これからの5日間、どんな事が待っているのか、期待よりも不安の方が大きい講座がいよいよ始まったのでした。

開講式につづいての講義1では、文部省体育局健康教育専門員の出井美智子先生が、① ことば、動作などから子どもの出しているサインをつかむ、気づきを高めること。② 相談活動は校内で組織的にすすめる。③ 自分あるいは校内で行う限界を知って専門機関に紹介する。④ 仲間と事例研究会をもち、できればスーパーバイズを受けること。とこの研修から学びとることを簡潔に4点にまとめて下さいました。

ついで講義2でカウンセリングの理論と方法を、講義3で発達の視点からみた思春期の心理、登校拒否等の勉強をし、いよいよ2日目の午後から、カウンセリングの実習に入りました。

人の話に耳を傾むける姿勢

エンカウンターグループ方式とは何かも知らず、ただ配属された班で、何を目ざしているかわからず、いま「なぜこんな無意味な時をすごすのか」とイライラし、講師の顔をにらみつけたり、ふくれたりの時がすぎてゆきます。「こんな実習が後2日間も続くのなら、荷物をまとめて帰りたい」と夜同室の人にもらしていました。こんな苦しい思いをした実習も3日間が終わると、人の話に耳を傾け、理解しようとし、また、その中で、自分自身を見つめ直している自分に気づき、貴重な経験ができたことを喜んでおります。

5日間の研修をおえて、保健室の自席にすわった時、苦しかったカウンセリングの実習の中で学んだものを、来室する生徒との対応の中に生かしたい、と強く私は思ったのでした。

日本学校保健会だより

平成元年度 学校保健センター的事業報告会

平成元年度の学校保健センター的事業は、普及指導、調査研究、健康増進の三事業において、22の委員会を構成し、延べ203名の委員と37の都道府県学校保健会に研究を委託し、それぞれ熱心な活動が推進された。この成果は例年のように、下記の予定で報告される。

平成元年度

学校保健センター的事業報告会要項(概要)

日時 平成2年3月7日(水) 10:00~16:00

会場 国立オリンピック記念青少年総合センター
(東京都渋谷区代々木神園3-1)

対象者 都道府県・指定都市学校保健会から推薦された方

趣旨 学校保健センター的事業の成果を報告し、協議を重ねて学校保健の充実に資する。

日程

9:30	10:00	12:00	13:00	16:00
受付	開会	全体会	昼食	分科会
				閉会

全体会 (10:00~12:00)

- ・開 会
- ・あいさつ

財団法人日本学校保健会会長 村瀬敏郎

文部省体育局学校健康教育課課長 石川 晋

(1) 平成元年度 学校保健センター的事業及び各委員会活動の概要報告

企画運営委員長(専務理事) 和久井健三

(2) 健康診断調査研究委員会報告

委員長 船川 幡夫

(3) 分科会発表の概要説明

① 中学校の保健指導委員会 委員長 斎藤 歎能

② ころとからだの健康増進委員会

委員長 宮坂 忠夫

③ 地域学校保健組織活動推進委員会

委員長 石井 宗一

昼

食

分科会 (13:00~16:00)

(1) 中学校の保健指導委員会

(2) ころとからだの健康増進委員会

(事業委託学校保健会の研究成果の一部も発表)

(3) 地域学校保健組織活動推進委員会

(事業委託学校保健会の研究成果の一部も発表)

閉 会 (各分科会ごとに解散)



学校保健センター的事業は文部省からの国庫補助金によって行なわれる事業で、その報告会は、昭和48年度に第1回を開催して以来、全国より年々参加を希望される関係者が増加している。このことは、本会の開催する各種事業の成果、各委員会及び委託学校保健会等の研究の充実、あわせて研究成果の出版配布などにより、本会並びに学校保健センター的事業の趣旨が次第に浸透してきているためと考えられる。

こうした傾向に、本会では、学校保健センター的事業報告会が、さらに参会者のよりよい研究の場ともなることを願って、報告会のもち方について改善のためのアンケートを実施した。

アンケートは去る11月17日、水戸市で開催された平成元年度全国学校保健協議大会の参会者のご協力を得て実施した。

その結果を簡単に報告する。

(1) 開催日について

3月上旬 (24)	2月下旬 (18)
2月中旬 (13)	3月中旬 (7)

(2) 開催日程について

- ① 現在のままでよい PM10:00~PM4:00 (48)
- ② 2日間 (7)

(3) 当日の運び方について

- ① 現在の運び方でよい (37)
(午前中全般報告、午後分科会)
- ② 全体会で終始する(A) (11)
(本年度研究の終了した委員会を午前中から全体会として順に報告する)
- ③ 全体会で終始する(B) (11)
(①の内容をすべて全体会で実施する)

〔()内の数字は頻数〕

◎アンケートにご協力下さった方々に感謝しつつ、上記のご意向を今回の日程に、極力生かすことを考え、今回は頻数の最も多い方法で計画した。

育ちざかりのひと粒!



ゼリー状ドロップ剤

歯・骨を丈夫に……

カワイイ肝油ドロップ



河合製薬株式会社 東京都中野区新井2丁目51-8



学童の集団検診にお選びください。

エームスは新しい目で健康をもつます



尿中白血球反応をプラスしたエームスの尿検査試験紙

エームス尿検査試験紙 尿中pH・ブドウ糖・蛋白質・潜血検査用

ヘマコンビステックズ

体外診断用医薬品

エームス尿検査試験紙 尿中ブドウ糖・比重・pH・潜血・蛋白質・亜硝酸塩・白血球検査用

ネフロステックズ-L

体外診断用医薬品

マイルス・三共株式会社

東京都中央区銀座1丁目9番7号 千104 ☎(03)567-5511

販売元:

三共株式会社

東京都中央区銀座2丁目7番12号 千104 ☎(03)562-0411

JU1488S

学校検尿のすべて

◆改訂版から事後措置まで◆



編者 財団法人 日本学校保健会

改訂版ができました!!

改訂 学校検尿のすべて 一計画から事後措置まで

<目次>

腎臓の働きとその病気（学校検尿で発見される腎臓病……）／学校検尿のすすめかた／精密検診／管理と治療（腎臓の管理指導表とその活用、いろいろな腎臓病の治療と管理……）／学校検尿と糖尿病（学校検尿と糖尿検査、糖尿病の管理指導表……）

★財団法人 日本学校保健会 編

●頒価 1,300円(消費税別) 送料実費

●体制 A5判・2色/140ページ

お申込先

財 予 防 医 学 事 業 中 央 会

千162 東京都新宿区市谷砂土原町1-2

☎ 03-268-1800 FAX 03-266-8767

貧血と脳貧血

その予防と指導

財団法人 日本学校保健会 編

★A5・208頁・定価1,009円<千260>

貧血の症状や調べ方、治療について専門的、医学的に解説。学校での指導や予防等についても事例を交えて紹介した。

学校環境衛生

日常点検と処置

財団法人 日本学校保健会 編

★A5・160頁・定価820円<千260>

学校環境衛生検査において照明、騒音等、教職員が計画的に行う日常点検について、その検査項目ごとに具体的に解説。

耳鼻咽喉科の学校保健

財団法人 日本耳鼻咽喉科学会 学校保健委員会 編集

★A5・288頁・定価2,580円<千310>

学校医が耳鼻咽喉科の健康診断を実施する際に必要な実務的解説と、養護教諭が事後措置の一環としての保健指導をする時の参考となるよう編集した必携書。



第一法規

千107 東京都港区南青山2-11-17 ☎(03)404-2251/FAX(03)479-1747

※定価は消費税込みです。

“ふだんの予防で、元気な毎日”まず手洗い!!

殺菌消毒用 シャボネット石鹼液 2.0L

日本学校保健会推せん No.632

精製ヤシ油を原料にした殺菌、消毒用石鹼液で、手洗いのあといや～な臭いが残りませんので喜んでお使いいただけます。シャボネット容器に入れ、水で7～10倍にうすめてお使いください。

サラヤ株式会社 TEL (06)797-2525

東京サラヤ株式会社 TEL (03)769-3131

（本会報は、拠出金と、本会への（財）日本船舶振興会助成金により作成しました）